SAGA-KEN
MEDICAL CENTRE
KOSEIKAN

佐賀県医療センター好生館

令和６年度版

病院案内

基本理念

扁額

病む人、家族、そして県民のこころに添った最良の医療をめざします

設立の理念

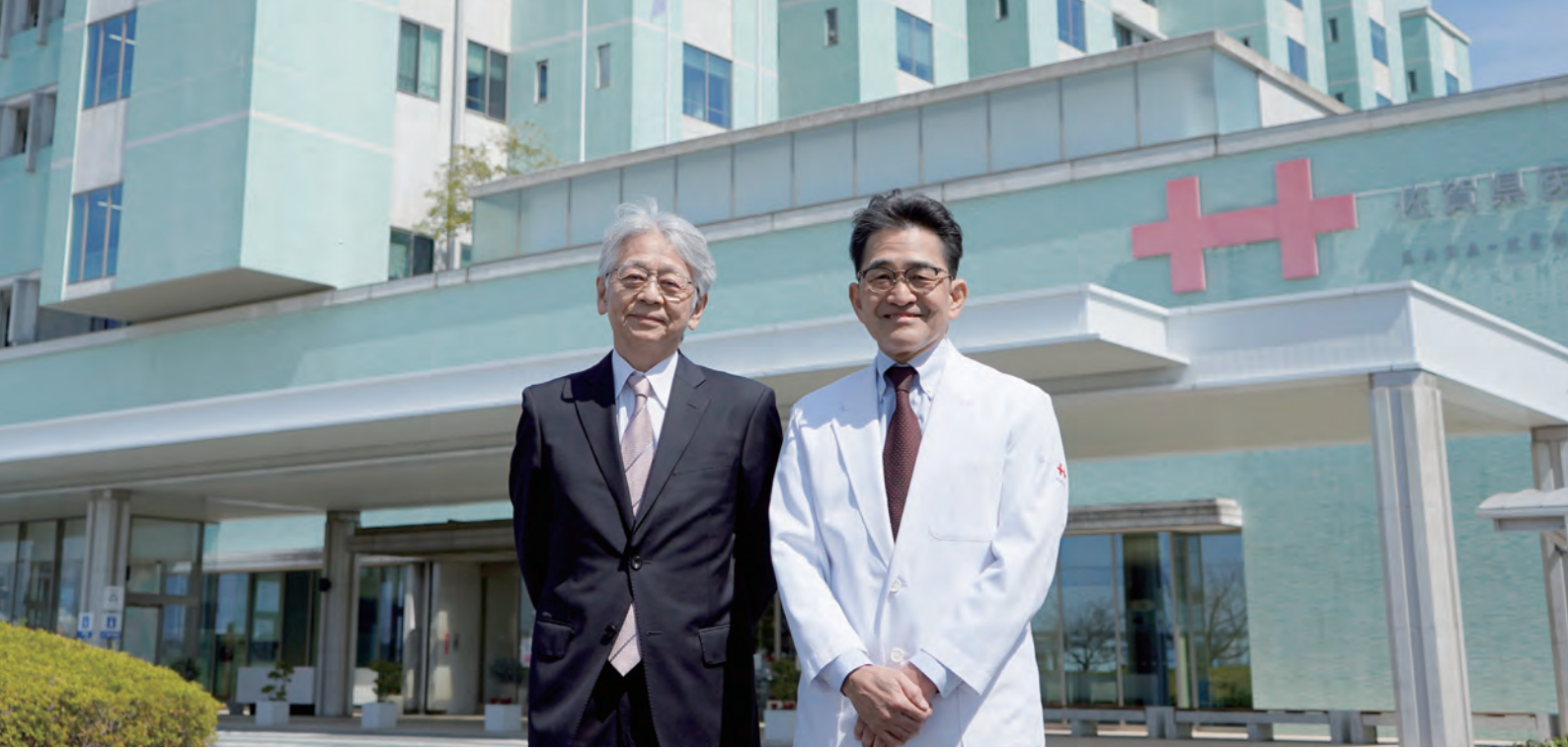
好生の徳は民心にあまねし

学問なくして名医になるは覚束なきことなり

（古賀穀堂「学政管見」より）

基本方針（目標）

1.患者中心の信頼される医療
2.良質で安全な高度医療
3.救急医療の確保と地域連携の医療
4.教育の重視と人材の育成
5.経営努力による経営効率の改善



職員一丸となり
基本理念を実行します

理事長　樗木（おおてき）　等（ひとし）

平素より大変お世話になっております。2024年度は141人の新職員を迎え、教育・研修・指導と人材育成を実施しています。

本年初頭に能登半島地震が発生し、その後も日本各地で地震が頻発して日本が揺れています。能登半島の一日も早い本格的な復興を祈念いたします。世界情勢や円安で物価が高騰し、薬剤やその原料も高騰して品薄となり、慢性的な薬剤の供給制限で医療提供に支障を来しています。経済的な不安定感が受診抑制につながり、重症化した状態での受診とならないことを祈ります。

5月連休明けより、病院棟北側に3階建増築棟の準備工事などが始まりました。嘉瀬地区の新病院に移転して10年経過しましたが、近年求められる高度救急医療、危機災害医療の充実や、人材育成環境の狭隘化などに対応を余儀なくされました。平時の医療と並行して工事を進めますので、通路が狭小となったり、救急外来受診の際などご不便をおかけします。

2024年4月より医師の時間外労働上限規制が始まり、トリプル改定のひとつとして6月から令和6年度診療報酬改定が施行されるなど、様々な制度が一斉スタートしました。多くの制度の遵守すべき事項を踏まえ、丁寧に医療提供ができることを目指しています。

全ての職員が一丸となり、好生館の基本理念「病む人、家族、そして県民のこころに添った最良の医療をめざします」を実行いたします。今後とも好生館のご指導ご支援をお願い申し上げます。

安全な医療提供のための
「働き方改革」

館　長　田中（たなか）　聡也（としや）

2024年4月から、医師の時間外労働の上限規制などを含む「医師の働き方改革」が本格的にスタートしました。これまで、医師の5人に2人が過労死ラインを超える時間外労働を行うことで医療制度を支えてきました。過酷な労働環境下での診療は、患者さんを危険に晒します。労働環境の改善は、当館が目指している“最良の医療の提供”に必須であると考えています。

また、労働環境の改善は医師に限ったことではなく、全職員の労務管理の適正化を徹底してまいる所存です。好生館では、全ての職員の労働環境の改善を目的として業務の移行、業務の分散、業務効率の改善などさまざまな取組を行っております。

しかし、好生館単独の取組だけでは不十分です。地域の医療を守るために、地域全体で、連携医療機関や患者さんとも協力しながら、医療機関の機能分化やかかりつけ医制度の充実を図り、一病院の枠を超えた業務の移行、業務の分散、業務の効率化を進めていく必要があります。

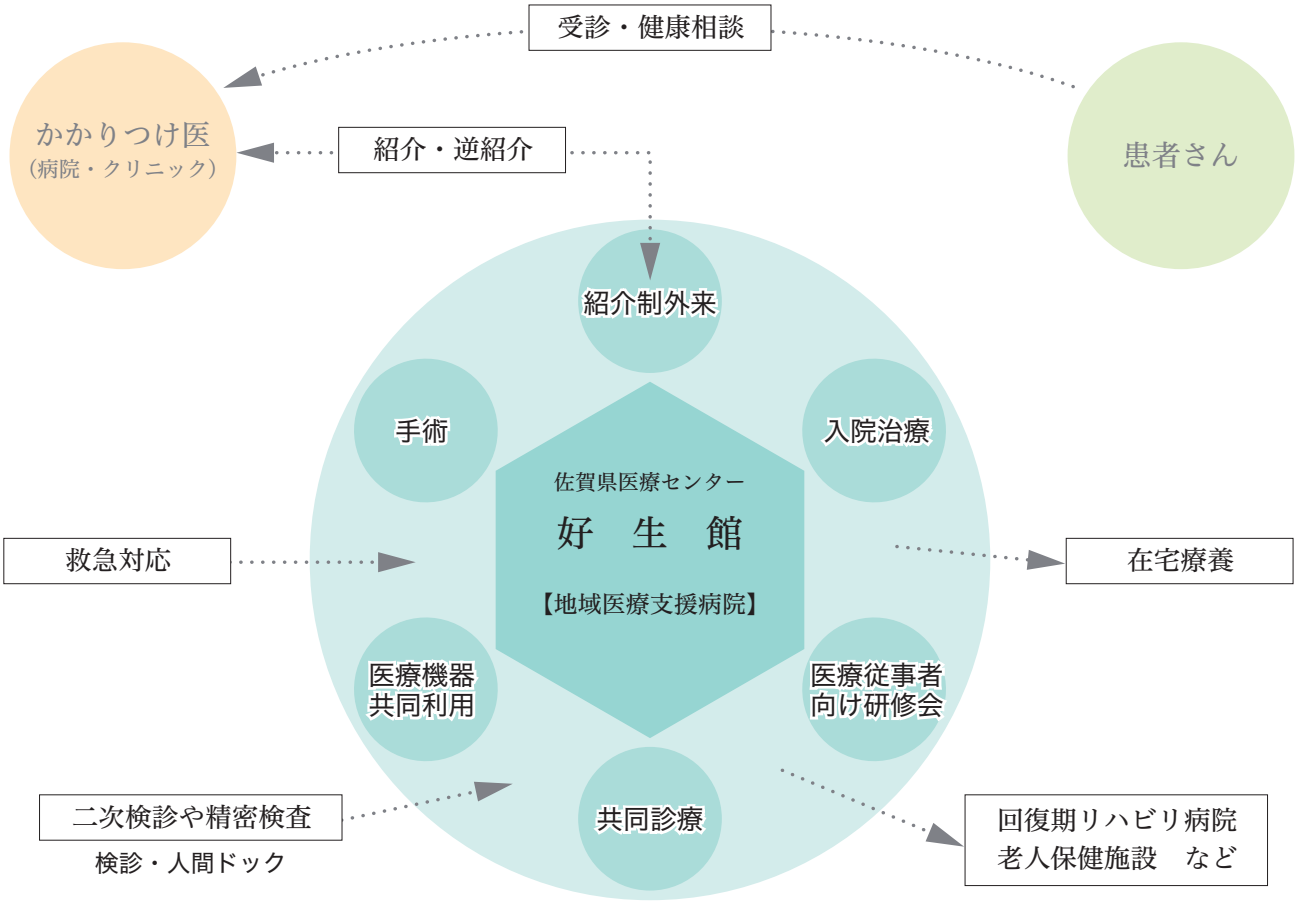
本冊子では、当館の担うべき役割を明確にすべく診療科や診療部門、各センターなどをご紹介しています。日常の診療や受診などにお役立ていただけましたら幸いです。

好生館が“心身ともに健康で生きがいのある人生を送ることを支える病院”、“地域の皆様にとって頼りになる病院”であり続けるよう職員一同精進してまいりますので、今後ともご支援よろしくお願いいたします。

地域医療支援病院

患者さんを支える、佐賀の医療を支える

「地域完結型医療」の実現に向けて、地域の医療機関との連携の下、専門的で高度な医療や救急医療を提供します。また、医療機器の共同利用や地域の医療従事者に対する研修の実施、県民に向けた健康情報の発信などを通じ、地域全体の医療の質向上に貢献します。



救命救急センター

24時間体制で救命救急医療を提供

24床の救命救急センター病棟では、24時間体制で重症患者を受け入れています。ERには救急患者の緊急度判定を行う「トリアージナース」を配置し、緊急性の高い順に来院患者に治療を行っています。また、県下全域に15分以内で到着できるドクターヘリを佐大病院と共同運航し、より広域・迅速な救命を目指しています。

基幹災害拠点病院

非常時も「最良の医療」を継続する

災害で多数の傷病者が発生した場合に、重篤な患者に医療提供を行う他、他の災害拠点病院との間で患者の広域搬送を調整します。また、災害派遣医療チーム（DMAT）を保有し、被災地に派遣します。加えて、平時から大規模災害への備えに万全を期するため、行政等と連携した災害訓練を実施しています。

地域がん診療連携拠点病院

「質の高いがん診療」のために

高度・専門的ながん診療を提供できる医療スタッフを配置し、最新のがん治療法を積極的に導入しています。また、地域におけるがん診療の連携協力体制の整備、がん患者やそのご家族への相談支援・情報提供など、地域のがん診療において中心的な役割を担っています。

第一種感染症指定医療機関

危険な感染症から県民を護る

感染力が非常に強く重症化しやすい一類感染症、二類感染症及び新型インフルエンザ等感染症の患者を収容し、適切な治療を提供することができる、佐賀県で唯一の医療機関です。高度な感染防護機能を有する感染症病室を８床（第一種２床・第二種６床）備えている他、行政等と連携し感染症患者の搬送・受入訓練等も実施しています。

その他の指定・認定

紹介受診重点医療機関　第二種感染症指定医療機関　第一種協定指定医療機関　原子力災害拠点病院　エイズ治療拠点病院　開放型病院（10床）
臓器提供施設　臨床研修病院　佐賀大学医学部関連教育病院　DMAT 指定医療機関　ISO15189（臨床検査室）認定医療機関
日本医療機能評価機構病院機能評価認定病院（3rdG:Ver.2.0）　DPC対象病院　JMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）認証医療機関
地域周産期母子医療センター　がんゲノム医療連携病院　アレルギー疾患医療地域協力病院　JCEP（卒後臨床研修評価機構）認定医療機関

診療科・部門・職種の垣根を越えたチーム医療

救命救急センター

1987年に佐賀県初の「救命救急センター」として開設されて以来、救急医療における「最後の砦」としての役割を果たしてきました。今後も佐大病院を始めとする地域の医療機関、消防本部、行政等と連携し、佐賀県全域へのよりよい救急医療の提供に尽力いたします。

がんセンター

がんの予防から診断、先進の手術療法・化学療法・放射線治療、緩和ケア、がん相談、がん地域連携パス、がん登録に至るまで、がんに関する高度で専門的な知識と技術を有するスタッフが集学的がん診療を提供します。また、がんセンターは、当館が「地域がん診療連携拠点病院」としての役割を適切に果たしているかどうかをチェックする機能も担います。

脳卒中センター

脳卒中ケアユニット（SCU）を有し、24時間・365日の体制で脳卒中の患者さんを受け入れ、内科・外科の垣根を越えたチーム医療を提供します。早期の機能回復・社会復帰に向け、発症翌日にはリハビリテーションを開始する他、転院後も継続的なリハビリが必要な場合には、「ピカピカリンク」や「さがんパス.net」を通じて診療情報を共有します。

ハートセンター

心不全、虚血性心疾患、不整脈を始めとする心臓病に対し、多職種のスペシャリストからなる「ハートチームカンファレンス」にて、治療方針だけでなく社会復帰に向けた課題を洗い出し、方策を検討して速やかに実行します。また、循環器病対策基本法の趣旨に則り、健康寿命の延伸に資する観点から、「予防」の取組にも注力しています。

周産期母子センター

佐賀県の「地域周産期母子医療センター」として、生まれてくる赤ちゃんに治療が必要と予想される場合、分娩前に産科に入院いただいて、高度な分娩管理と出生直後からの新生児集中治療を行います。当館は、佐賀県で唯一の「小児外科」という独立した診療科名を標ぼうする医療機関であり、新生児外科疾患の多くに対応しています。

リハビリテーションセンター

急性期治療と同時にリハビリテーションを進めることにより、合併症や廃用症候群を予防し、患者さんをより高い機能状態で連携医療機関に引き継いで、早期の機能回復・社会復帰を目指します。リハビリテーション医の指示の下、療法士が患者さんの状態やリスクを正確に評価し、安全で専門性の高い急性期リハビリテーションを提供しています。

消化器病センター

消化器疾患全般に対し、消化器内科、消化器外科、肝胆膵内科、肝胆膵外科、腫瘍内科（臨床腫瘍科）が一体となり、関係他部門と連携して、診断・治療を行っています。

外傷センター

重症外傷に対し、質の高い診療を提供することを目的として、2012年に開設されました。重傷・重篤な外傷に対して迅速に緊急処置を行い、解剖学的修復やリハビリテーションまで外傷センタースタッフが一貫して関わることにより、「防ぎ得た外傷死」を予防して後遺障害の低減を目指します。

呼吸器センター

呼吸器疾患全般に対し、呼吸器内科、呼吸器外科が一体となり、関係他部門と連携して、診断・治療を行っています。

糖尿病センター

2023年に立ち上げられた糖尿病センターでは、一般の糖尿病患者に加えて、小児科や産婦人科と連携し、小児の肥満や妊娠糖尿病などにも対応します。多職種が協働し、糖尿病の予防と治療に取り組んでいます。

手　術　部

各診療科の日々の手術が安全で円滑に行えるよう、また、24時間・365日の緊急手術にも迅速に対応できるよう、万全の体制を整えています。患者さんが安心して手術を受けていただけるように、手術部スタッフの総力を挙げて、安全な手術環境の構築を目指します。

集中治療部（ICU）

専従の集中治療専門医を配置し、他診療科の協力を得ながら、24時間・365日の体制で呼吸管理、循環管理、血液浄化等の幅広い領域の集中治療に対応しています。

看　護　部

専門職としての誇りと責任を持ち、患者・家族一人ひとりを大切にした看護を実践します

看護部では、佐賀県の中核医療機関として、県民の皆さんに最新で、最良の医療の提供を目指すために、看護の専門性が発揮できる看護職の育成に努めています。看護師育成においては、看護部の基本理念、基本方針から考えたキャリアラダーによる教育の充実を図っています。
実際の看護現場では、患者さんの入院前から退院まで、さらに退院後の生活を見据え、医療と生活の両方を支える看護の提供が求められています。患者さん・ご家族の多様なニーズに対応できるように、院内外の看護師の連携、多職種との連携協働を促進し、より良い医療・看護の提供を実践しています。
入院前から始める入退院支援や、専門・認定看護師が行う専門性の高い看護では、「ストーマ・創傷ケア外来」、「がん看護外来」、「助産師外来」の3つの看護専門外来があります。さらに、現場における看護の専門性の発揮を支え、自らも高度な看護実践をする専門・認定看護師26名、特定行為研修修了者23名が現場で活躍しています。

薬　剤　部

専門性を活かし薬物療法の質向上に貢献する

内服・注射薬の調剤や抗がん剤の無菌調製、医薬品情報管理、治験管理などの業務を行っています。また、各病棟に配属された薬剤師が病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務を担い、投薬の前後で薬学的介入を行って、患者さんの薬物治療の質の向上に努めています。 専門・認定資格を有する薬剤師が多数在籍しており、自らの得意分野を活かしながらチーム医療の中で活躍しています。

放射線部

最新の放射線医療機器で診断・治療をサポート

X線やCT、MRIなどの検査や放射線治療を正確かつ迅速に施行し、早期の診断や適切な治療をサポートします。診療放射線技師は、一般撮影部門、血管造影部門、CT・MRI部門、放射線治療部門、RI部門に分かれて配置されており、他の医療スタッフとともに、患者さんに最適な医療が提供されるよう心がけています。最新の放射線医療機器を最大限に活用できるよう、日々研鑽を続けています。

MEセンター

冷静な判断力と正確さで安全な医療を提供

高度な最先端医療機器が多く存在する手術室、ICU、心臓カテーテル室などでの生命維持管理装置（血液浄化装置、人工呼吸器、補助循環装置等）の操作や、各種医療機器（手術支援ロボット、除細動器等）の保守点検・管理を行っています。また、医師のタスク・シフト/シェアの対応では、内視鏡外科手術時のカメラ操作や心臓植え込み型デバイスの定期遠隔モニタリングシステムの管理業務を行っています。医療機器を通じて、患者さんへの安全・安心な医療の提供と質の向上につながる重要な役割を担っています。

検　査　部

国際規格の認定を取得・維持しています

採取した血液や尿などを分析する検体検査と、患者さんの身体から直接得られる電気的・物理的な信号を記録し分析する生理機能検査（心電図、呼吸機能検査、超音波検査等）を行っています。当館は、臨床検査室の品質と能力に関する国際規格「ISO15189」の認定を2015年に取得し、現在も認定を維持しています。

リハビリテーションセンター

その人らしい生活を支えるために

重症化予防や心身機能の回復だけでなく、早期の生活活動の再建と社会参加も重視した安全で専門性の高い急性期リハビリテーションを提供しています。脳血管、運動器、呼吸／循環のそれぞれの診療ユニットが、多職種によるチームアプローチを推進しています。また、病棟専属の療法士が病棟スタッフと協働し、早期離床や日常生活活動の回復を促すことで、一日でも早い退院・社会参加を支援しています。

栄養管理部

食事・栄養の面から患者さんをサポート

疾病治療のための「食事療法」と、「食事は文化」という想いの両立を目指しています。入院患者さんの食事はそのほとんどが手作りであり、レストランテイストのメニュー「さがランチ」を月２回提供するなど、制約の中でもおいしく召し上がっていただけるよう努めています。また、食器に有田焼を用い、食べる環境にも配慮しています。各病棟（一部を除く）には管理栄養士を配置し、患者さんとコミュニケーションを取りながら、それぞれに合った食事提供や栄養指導などを行っています。

患者・家族総合支援部

病む人と、家族に寄りそう

シームレスな地域包括ケアシステムの構築に寄与することを目指し、患者さんの初診紹介受診から入院、転退院、転院後の外来に至るまで、総合的に支援を行います。

入退院支援センター

安心して入院生活を送っていただけるよう、入院の決定時から患者さんと関わり、主治医と密に連携をとりながら多職種で支援を行います。医療面・生活面・経済面の問題に早期に介入し、入院前から退院後まで一貫した質の高いサービスを提供します。

地域医療連携センター

紹介患者の事前予約サービスの提供や在宅移行の支援、院内外に対する情報収集・情報発信を行っています。また、地域の医療従事者向けの研修会も定期的に開催しています。地域の医療機関の皆さまと連携・協力し、安全で良質な「地域完結型医療」を目指していきます。

相談支援センター

社会福祉士が、患者さんやそのご家族から相談を受け、解決のお手伝いをします。医療費や介護保険、治療と就労の両立、転院先や在宅療養など、多岐にわたる内容のご相談に対応しています。

QMセンター

患者安全はすべてに優先する

医療安全管理と感染制御は、医療を提供するにあたり最も優先されるべき活動です。これらを担う「医療安全管理部」と「感染制御部」をQM（クオリティマネジメント）センターとしてグループ化し、組織横断的な質改善活動を促進しています。

医療安全管理部

医療安全と質改善に対するスタッフの意識を高め、良好なチームワークの下、医療が提供されるよう、インシデント・アクシデントレポートの収集・分析、医療安全に関する情報発信、研修会や医療安全ラウンドの取組などを実施しています。

感染制御部

館内の感染症診療と感染対策を一元的に担っている他、地域の医療機関との感染対策医療連携にも取り組んでいます。直下に「抗菌薬適正使用支援チーム」、「感染制御チーム」を組織し、安全で良質な医療の提供を目指して積極的に活動しています。

総合教育研修センター

高度医療を提供するスタッフの育成

安全で良質な高度医療の提供を目指し、総合教育研修センターに専任の教育担当スタッフを配置して教育・研修の充実強化を図り、人材育成を推進しています。

患者さんとそのご家族が快適に、安心してお過ごしいただけるよう、さまざまなサービスや設備を整えています。

レストラン・コンビニエンスストア

1階にレストラン、南側別棟にコンビニエンスストア(ローソン)を設置しています。レストランでは焼き立てのパンも販売されています。コンビニエンスストアまでの通路には屋根が設置されており、雨の日でも濡れることなく利用いただけます。

全館フリー Wi-Fi

館内のすべてのエリアで利用いただけるフリーWi-Fiサービスを提供しています。
消灯時間以降のインターネット利用は控える、大音量で動画や音楽を再生しないなど、ルールを守ってご利用ください。

佐賀県立図書館好生館分室

他の公共図書館と同じように、読書をしたり、本を借りたりすることができます。好生館分室にない本は取り寄せも可能です。

外来診療費後払いサービス

外来診療費のスマホ後払いサービス「Sma-pa」をご利用いただくと、外来診療の終了後、会計を待たずすぐにお帰りいただけます。領収書や明細書はアプリで確認可能です。

災害時の医療継続を支える設備

医療ガス・非常用電源

大規模災害の発生時にも医療機能を継続し、多くの患者さんを受け入れることができるよう、数多くの対策を講じています。

高度な院内セキュリティ

病棟入口

入院患者さんの保安管理や安静確保のため、各病棟の入口に24時間稼働のセキュリティシステムを設置しています。

地域医療を支える最新の設備

手術支援ロボット（da Vinci Xi）

患者さんの負担を軽減し医療の可能性を広げる

da Vinci Xiは、内視鏡手術を支援するロボットです。患者さんの体に開けた小さな穴からカメラや鉗子を挿入し、執刀医は、サージョンコンソールで３Ｄ映像を見ながら、鉗子を遠隔操作します。当館では、消化器外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、産婦人科及び泌尿器科でda Vinci Xiを用いたロボット支援下手術を実施しており、2023年度は224例が施行されました。
da Vinci Xiには多くのメリットがあります。例えば、da Vinci Xiでは患者さんの体内で直接臓器を見ているかのような、立体的で鮮明な視野で手術を行うことができます。また、人の手よりも自由度の高いアームを備え、複雑で繊細な動きができる他、高度な手ブレ補正により手ブレも起こりません。その他、出血量が少ない、傷がほとんど残らない、術後疼痛が少なく回復が早いなどのメリットもあり、医療の可能性を広げるものとして期待されています。

放射線治療装置（TrueBeam）

精緻な照射で患者さんの負担を軽減

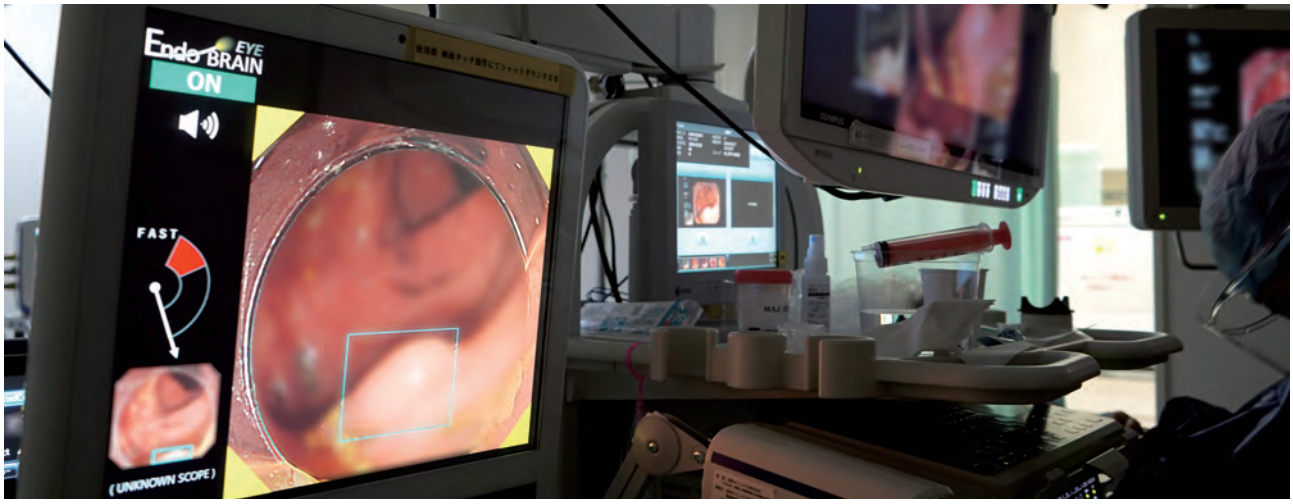
放射線治療は、手術や薬物療法と並ぶがんの3大治療法の1つです。病巣に放射線を照射し、がん細胞の遺伝子（DNA）にダメージを与えて、がん細胞を壊す治療法です。X線撮影と同様に、放射線があたっても、痛みや熱を感じることはありません。放射線治療のみでがん治療を行うこともありますが、病期や症状に合わせ、手術や薬物療法などの治療法と組み合わせて放射線治療を行うこともあります。がんを完全に治癒することを目的に行われる場合が多いですが、手術や抗がん剤治療後のがんの再発予防や、がんによる痛みなどの症状の緩和を目的として行われることもあります。
当館では、2024年3月に「TrueBeam」（トゥルービーム）という放射線治療装置を導入しました。この装置は、がん細胞に対して適量の放射線をピンポイントに照射し、高精度・短時間に治療する機能等を備えており、頭頸部、体幹部、四肢にわたる幅広い部位のがんの他、脳転移、骨転移などの転移性腫瘍にも適応があります。また、2台のフラットパネル検出器に加え、高精度光学カメラを備えています。サブミリメートルの精度でリアルタイムに患者さんの位置や動きを追跡し、誤差の補正を行うことで、正確な治療を実施することが可能です。

その他の医療設備

手術室	10室	SCU	9 床	無菌室	10床
血管造影室	3 室	NICU	10床	MRI	2 台
透析室	20床	救命救急センター	24床	診断用CT	3 台
化学療法室	25床	第一種感染症病室	2 床	治療計画用CT	1 台
ICU	8 床	第二種感染症病室	6 床	RI	1 台

内視鏡AI画像診断支援システム

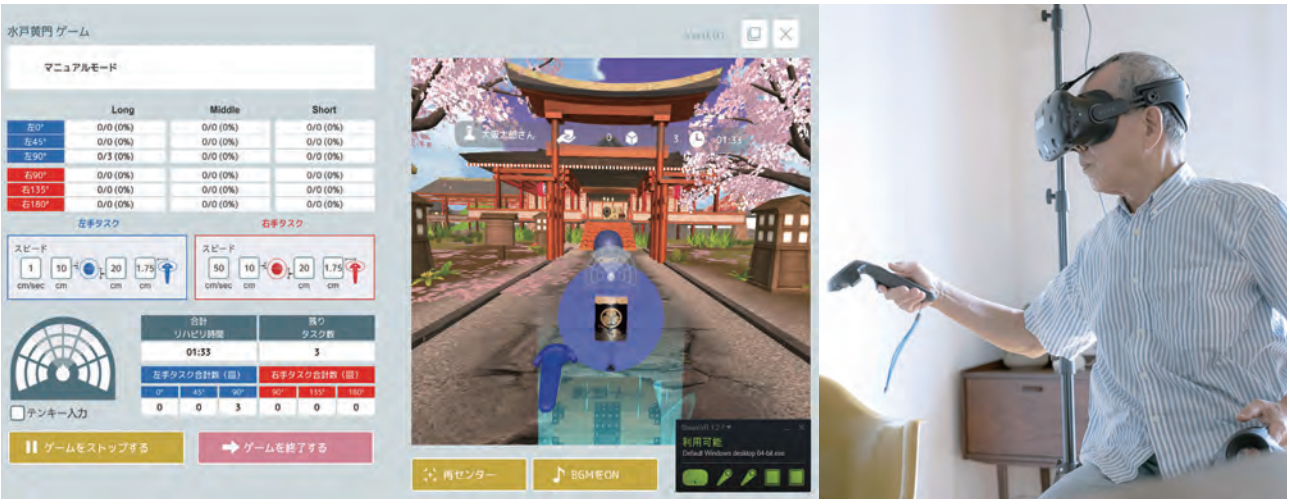
医師とAIの協働により確かな診断を実現



内視鏡AI画像診断支援システム（AI内視鏡）は、内視鏡検査における病変の検出と診断を支援するAIシステムです。当館でも、「がん見逃しゼロ」を目指し、AI内視鏡を導入しています。当館のAI内視鏡は、「病変検出支援機能」と「疾患鑑別支援機能」を搭載しており、スコープのスイッチ一つで起動する利便性を備えています。「病変検出支援機能」は、リアルタイムに検出した病変箇所を、内視鏡画像上に枠を囲い表示し、報知音を発することで、医師による病変の見逃しを減少させます。「疾患鑑別支援機能」は、病変箇所が腫瘍性又は非腫瘍性である可能性を推定し、リアルタイムにその結果を表示して、医師による疾患の迅速かつ正確な識別を支援します。当館では、AI内視鏡の革新的な技術の恩恵を、「早期診断・早期治療」という形で県民の皆さんに還元してまいります。

mediVRカグラ

最新VR技術を活用したリハビリテーション



mediVRカグラ®は仮想現実（VR：Virtual Reality）技術を応用したリハビリテーション医療機器で、mediVR社と大阪大学との産学連携活動によって開発されました。神経科学・行動科学の知見と18種以上の特許技術に基づいて開発されており、目標動作を上手く行えたときに視覚・聴覚・触覚と多方面から強力なフィードバックを行うことで、身体の動かし方を効率的に脳に再学習させることができます。経済産業省が主催するジャパンヘルスケアビジネスコンテストで最優秀賞を受賞したり、脳血管疾患や整形外科疾患などの歩行機能やバランス能力、注意機能などに対する改善効果が多数の学会で報告されており、その高い治療効果に期待が寄せられています。

2026年4月、新棟が完成します

災害時医療機能の充実、高度急性期・救急医療の充実、地域医療連携・入退院支援機能の充実、質の高い職場環境の確保を図るため、2024年3月から2027年3月までの3年間にわたり、増築等整備事業を実施します。（2026年4月には新棟が完成し、その後病院棟の一部改修を行います）
好生館が果たすべき役割や機能の充実・強化を図り、患者さんやそのご家族、来館者や地域の皆様にとって信頼される病院となるべく事業を進めてまいります。工事の施工に際しては何かとご不便をおかけすることになりますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

病院概要

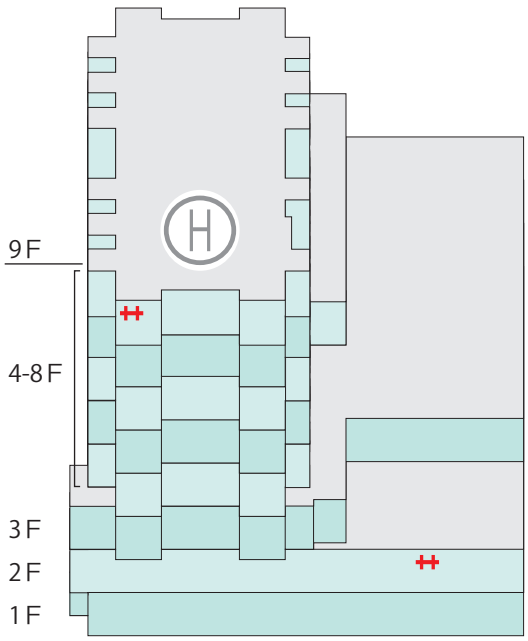
名　称　地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館
所在地　〒840-8571　佐賀市嘉瀬町大字中原400番地
ＴＥＬ　0952-24-2171（代表）
ＦＡＸ　0952-29-9390

施　設　敷地面積　80,764㎡
　　延面積　48,346㎡
病床数　450床（一般442床、感染症8床）

組　　織

診療部門	総合内科　呼吸器内科　消化器内科　血液内科　肝臓・胆のう・膵臓内科 腫瘍内科（臨床腫瘍科）　糖尿病代謝内科　腎臓内科　脳神経内科　循環器内科 膠原病・リウマチ内科　緩和ケア科　呼吸器外科　消化器外科　肝臓・胆のう・膵臓外科 小児外科　心臓血管外科　脳神経外科　形成外科　整形外科　精神科　小児科 皮膚科　泌尿器科　産婦人科　眼科　耳鼻いんこう科　リハビリテーション科 放射線科　救急科　麻酔科　病理診断科　歯科口腔外科　健診科
がんセンター	緩和ケアセンター
中央診療部門	手術部　輸血部　検査部　病理部　放射線部　集中治療部　栄養管理部 材料部　リハビリテーションセンター　MEセンター　脳卒中センター　外傷センター ハートセンター　消化器病センター　呼吸器センター　糖尿病センター 救命救急センター　災害対策室　周産期母子センター
クオリティマネジメントセンター	医療安全管理部　感染制御部
医療情報部	DX推進室
患者・家族総合支援部	入退院支援センター　地域医療連携センター　相談支援センター
薬剤部	
看護部	
医師事務作業支援室	
Medical Link Office	
事務部	理事室　総務課　広報課　計画推進室　施設課　医事課　企画経営課　財務課
総合教育研修センター	国際交流室
総合臨床研究所	疾患疫学研究部　臨床試験推進部　疾患病態研究部　疾患ゲノム研究部　臨床統計推進部

フロアマップ



9F	ヘリポート		
3-8F	病棟		
8F西	緩和ケアセンター	8F東	
7F西		7F東	
6F西	脳卒中治療室（SCU）	6F東	
5F西		5F東	新生児集中治療室（NICU）
4F西		4F東	リハビリテーションセンター
3F西	透析室　屋上庭園	3F東	手術部・MEセンター 救命救急センター 集中治療部（ICU）
2F	外来　中央処置　化学療法　採尿・採血　心電図・エコー・脳波 健診・人間ドック　栄養相談室　医療安全管理部　感染制御部 事務部　多目的ホール		
1F	外来　放射線部　内視鏡　救急外来 総合案内　総合受付　相談支援センター　がん相談支援センター 地域医療連携センター　入退院支援センター レストラン　ATM（佐賀銀行）　佐賀県立図書館好生館分室		
南側別棟	ローソン		

1834年（天保５年）第10代佐賀藩主鍋島直正公により佐賀市八幡小路に医学館・医学寮が創設されました。その医学寮に直正公直筆の「好生館」という扁額（へんがく）が下し置かれここから好生館の歴史が始まりました。

好生館という名称は、中国の書経の一節「好生の徳は民心にあまねし」（人の生命を大切にする徳を万人にゆきわたらせる）から来たものです。

佐賀藩校弘道館の教授であった古賀穀堂が1806年（文化３年）「学政管見（がくせいかんけん）」の中で医学教育の必要性を訴え、また「学問ナクシテ名医ニナルハ覚束（おぼつか）ナキ儀ナリ」と医療者の心得を説きました。この言葉が医療者の向上心と育成のための教育の重要性を著しているものとして好生館の設立の理念となっています。当時の好生館では、日本で初めて種痘（牛痘）を施行したり、医業免札制度を導入し医術開業免状を発行するなど、他に例を見ない先駆的な取組が行われていました。日本赤十字社を創設した佐野常民も1851年（嘉永４年）医業免札を受け正式に医者になっています。

1858年（安政５年）佐賀市水ケ江に移転し正式に好生館という名称に統一され、1896年（明治29年）佐賀県立病院好生館となり、長年にわたり地域医療の基幹病院として高度・特殊医療、医療教育を担ってきました。

2010年（平成22年）地方独立行政法人に移行。2013年（平成25年）佐賀市嘉瀬町に新築移転し名称も佐賀県医療センター好生館と改め、各種医療機能を充実させ先進的で高度な医療を提供しています。

医術開業免状

種痘之図

1806年（文化３年）	古賀穀堂、「学政管見」を第９代佐賀藩主鍋島斉直に建白
1830年（天保元年）	鍋島直正、第10代佐賀藩主となり藩政改革に着手
1834年（天保５年）	医学館・医学寮創設 扁額「好生館」が置かれ好生館が始まる
1849年（嘉永２年）	大石良英、直正公嗣子淳一郎君に種痘
1851年（嘉永４年）	佐賀藩医業免札制度発足 医業免札姓名簿発行、医術開業免状交付
1858年（安政５年）	佐賀市片田江（現在の水ケ江）に移転
1860年（万延元年）	お玉が池種痘所、幕府西洋医学所となる
1872年（明治５年）	県立好生館病院となる
1877年（明治10年）	佐野常民、「博愛社」（日本赤十字の前身）を開設
1879年（明治12年）	外国人医師デーニッツ着任 ドイツ医学を教える
1883年（明治16年）	甲種医学校となる
1888年（明治21年）	公立佐賀病院となる
1896年（明治29年）	佐賀県立病院好生館となる
1899年（明治32年）	県立病院好生館付属看護婦養成所設置
1968年（昭和43年）	臨床研修病院に指定
1998年（平成10年）	緩和ケア病棟（15床）設置
2010年（平成22年）	地方独立行政法人に移行
2013年（平成25年）	佐賀市嘉瀬町に移転 佐賀県医療センター好生館となる
2014年（平成26年）	創始180年記念式典挙行 好生館ライフサイエンス研究所（現在の総合臨床研究所）設立
2020年（令和２年）	新型コロナウイルス感染症患者を佐賀県で最初に受け入れる 看護学院附属化

■交通アクセス

□到着時間のめやす

JR 佐賀駅から	バ　　ス	約 20 分
	タクシー	約 15 分
JR 鍋島駅から	タクシー	約 10 分
佐賀空港から	タクシー	約 20 分

□バス路線

佐賀市営バス	・嘉瀬新町 • 久保田線 ・徳万 • 久保田線
昭和バス	・唐津線（佐賀～唐津） ・多久線（佐賀～多久）
祐徳バス	・佐賀線（佐賀～鹿島） ・武雄線（佐賀～武雄）

好生館マスコットキャラクター コウたん

地方独立行政法人
佐賀県医療センター 好生館

〒840-8571 佐賀市嘉瀬町大字中原400番地

TEL 0952-24-2171(代表)　**FAX 0952-29-9390**

詳しくはホームページをご覧ください
https://www.koseikan.jp　好生館　検索

ホームページ　LINE　Instagram　YouTube　facebook